

## 第6学年2組 外国語科学習指導案

【日時】令和6年7月23日(火) 13:30～14:15 【場所】多目的室3 【指導者】松下 大介

### 本授業の参観の視点

下級生のためにクラスで考えたサンドイッチを紹介するという課題に対して、地理的なつながりを表す“○ is from ～.”や既習表現、非言語材料を活用し、分かりやすく伝えることを意識して伝え方を考えたり実際に試したりするなど試行錯誤しながら活動に取り組む児童の姿をご覧ください。

#### 1 単元名 下級生に日本と世界のつながりを伝えよう ～Let's think about the relation!～

(NEW HORIZON Elementary 6 Unit 5 参照)

#### 2 単元の構想

##### (1) 単元について

本単元は、NEW HORIZON Elementary 6 Unit 5 を基に本誌の内容を児童の実態と興味・関心に合わせて構成した。児童が明確な目的意識・相手意識をもって課題を解決するために、全校のために考えたサンドイッチについて下級生に分かりやすく紹介することをパフォーマンス課題として設定する。児童は、単元を通して友達や下級生に伝えるために必要な表現に慣れ親しみ、相手の実態を考えて適切な表現や方法を選んで紹介する活動に向かっていく。本単元では、食料や日用品等の輸出入について5年生へ、また、自分たちが考えたサンドイッチを下級生へ、必要と考える表現や既習表現を使って工夫しながら伝えるようにする。そのことを通して、様々な他者に応じて自分の考えや思いを分かりやすく伝える能力の育成を目指す。児童は、単元の2つのゴールに向かって、社会科で学習した日本と外国との関係についての内容や家庭科での栄養に関する学習を想起しながら取り組む。紹介する際には、これまで国語科で学んだり外国語活動・外国語科等で意識したりした、相手に分かりやすく伝えるための工夫を活用したり、これまで先輩が行ってきた給食メニューの紹介を想起したりしながら取り組むことができると考える。本単元のような紹介をゴールとする内容では、自分の考えや気持ちを目的や場面に合わせて他者に伝えることが重要である。他にも、相手に自分の考えや気持ちを理解してもらうためには、会話を続ける経験を積み重ねて自信をもって発表に臨むことも必要であると考え。既習の表現と他教科の学びを結び付けながら、友達との交流を通して下級生への紹介をよりよいものにしようとする児童の姿を期待する。そうすることで、単元終末まで意欲を維持したまま活動に取り組むことができる内容であると考え。この単元を通して身に付け高めた能力が、中学校でのディベート活動の素地となる。

##### (2) 児童について

図1の本学級の児童を対象にしたコミュニケーション能力に関する質問紙調査(回答34名)から、言語能力(発音、語彙、語順などの言語体系を適切に運用する能力)と談話能力(一貫性のある対話を構成する能力)については、他のコミュニケーション能力に比べてあまり意識していないという結果が見られた。単元を通して、児童の分かりやすく伝えたいという意欲を大切にできる限り正確な言語材料を使いながら目的、場面、状況等を踏まえて、他者と自分の考えや気持ちを十分に伝え合うことができるようにしたい。

また、児童の縦割り活動や日頃の学校生活の様子から、下級生のことを熱心に考え思いやる姿が見られている。そこで、下級生に対して目的意識・相手意識をもつようにすることで、より課題解決に向けて強い意識で臨むことを期待したい。

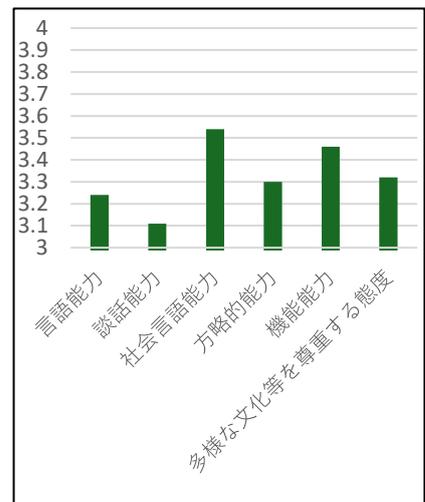


図1 コミュニケーション能力に関する意識調査

##### (3) 指導について

指導に当たっては、学級で決めたサンドイッチを給食として提供してもらうという児童が考えたゴー

ルの活動を具現化することを通して、実際に目的意識・相手意識をもって取り組むことを目指す。そこで、下級生に分かりやすく伝えるという明確な目的をもって、自分たちの思いや考えを伝えようとして内容を整理したり、他者に応じて話したりすることができるように指導していく。それにより、紹介する活動を通して文脈や場面に応じて適切な表現を使い分ける能力である社会言語能力を高められると考える。そして、児童の実態を踏まえ、言語能力と談話能力を高めることも目指す。さらに、外国と日本のつながりや全校のことを考えて活動することで、多様な文化等を尊重する態度も育てることができると考える。

これらのコミュニケーション能力を育成するために次の2つの手立てをとる。まず、1つ目は、T2Rサイクルを活用した教師と児童の協働した授業設計である。まず、T2Rサイクルを用いて、児童それぞれがどのように単元を進めようとしているか考えて単元を見通す(図2)。そして、教師は児童の考えたT2Rサイクルを基に、単元終末までの学習活動を修正し、児童の活動が円滑に進むような支援や指導を考える。児童は、それぞれが設計したり学級で共有したりしたことを基に学習の進め方を調整していく。

2つ目の手立ては、教師が本単元において児童に身に付けさせたいコミュニケーション能力を意識した内容及び活動を仕組むことである。そこで本時では、下級生に喜んでもらえるようなサンドイッチを決めるために、教師は児童のT2Rサイクルから見える教師と児童との認識のずれを解消しながら、児童は自分の課題を克服しながら学習活動を進める。本時では活動を通して、既習表現や紹介するために必要な表現を適切に、かつ、できる限り正確に用いて他の班に自分たちが考えたサンドイッチを伝えたり、他の班がどのようなサンドイッチを考えているのか質問したりして対話を続けることと、自他が考えたサンドイッチについて見聞きして学級代表のサンドイッチを選択・決定する姿を認めることができるようにする。

#### (4) 期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊の学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「単元・領域」	外国語活動 「使いたい文房具を提案しよう」 領域「話すこと」[発表]	・自分が伝えたいことが伝わるように工夫して紹介する。 【思考力、判断力、表現力等】	・発表のルールに沿って、様々な他者に、考えや気持ち、理由を加えて提案している。
ステージB 「自教科」	外国語活動・外国語科 「話すこと」[発表]	・挨拶を入れたり伝えたい情報を表したりして他者に提案することができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・言語の異なる他者に、自分のおすすめしたいことを既習表現や非言語材料を活用して分かりやすく伝えている。
ステージC 「他教科」	国語科 「A 話すこと・聞くこと」	・互いの立場を尊重し、伝えたい物事を論理的に思考し、適切な表現で提案したり紹介したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・提案や紹介の対象となる他者を思い、給食メニューについて思いを込めて、適切な表現を用いて提案・紹介している。
	社会科 現代社会の仕組みや働きと人々の生活	・我が国の国土の地理的環境とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土や外国との関係を踏まえ、世界の国々と共に生きていることを再確認している。 【学びに向かう力、人間性等】	・原産地や輸入先についてこれまでの社会科の学習を生かし、5年生や他の下級生が分かりやすい資料の内容を考えたり作成したりしている。
	家庭科 「B 衣食住の生活」	・体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解し、1食分の献立について栄養のバランスを考え工夫する。 【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】	・家庭科で学習した体に必要な栄養素の種類と主な働きを生かして相手のことを考えながら表現している。
ステージD 「実生活・実社会」	下級生との交流	・相手意識・目的意識をもって、考えや気持ちを伝えたり他者の考えを受け入れたりして提案したり紹介したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・下級生のために資料や献立を考える中で、内容や見え方等について自分の考えを伝えたり他者の意見を聞いたりして、よりよい結論を導こうとしている。

また、他者の発想を取り入れて多様な他者と協働したり、統合的に考えたりしながら活動する児童の姿として、下級生に合った表現や紹介する方法を考え、児童同士で交流しながら内容や考えを深めたり、友達や下級生の意見を聞き、考えを受け入れたり伝える表現や内容を工夫したりしている姿が期待される。

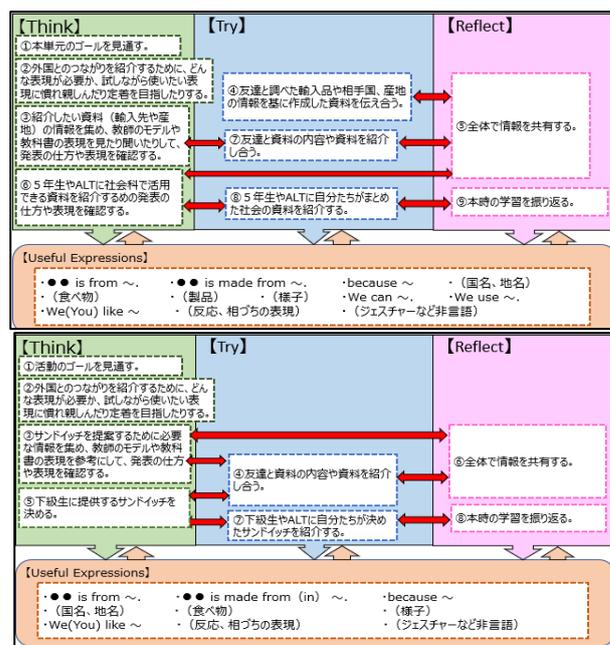


図2 教師が想定する本単元のT2Rサイクル(上:前半、下:後半)

### 3 単元の目標

#### (1) 単元の目標

自分や班で考えた資料やサンドイッチを場面や状況を踏まえて下級生に紹介することを通して、相手のことを考えたり共通点や多様性に気付いたりして、相手の考えを受け入れながら活動に取り組むことができるようにする。そして、言語活動では、相手が分かりやすいように非言語材料などを用いて、相手に配慮しながら伝えることができるようにする。

#### (2) 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	(知) 紹介する内容に応じた語彙や表現を理解することができる。 (技) 紹介する内容に応じた語彙や表現を基に内容を聞き取ることができる。	5年生への資料やサンドイッチの紹介を聞いて、内容を理解している。	5年生への資料やサンドイッチの紹介を聞いて、内容を理解しようとしている。
話すこと [発表]	(知) 5年生への資料やサンドイッチの紹介のための語彙や表現を理解することができる。 (技) 資料やサンドイッチの紹介のための語彙・表現を使って紹介することができる。	5年生への資料やサンドイッチの紹介のための語彙・表現を使って、相手のことを考えて紹介している。	5年生への資料やサンドイッチの紹介のための語彙・表現を使って、相手のことを考えて紹介しようとしている。
読むこと	(知) サンドイッチの具材について書かれた文字を読んで内容を理解することができる。 (技) サンドイッチの具材の頭文字を読むことができる。	5年生への資料やサンドイッチの紹介のために書かれた文字を地名や製品、食材と結び付けて読んでいる。	5年生への資料やサンドイッチの紹介のために書かれた文字を地名や製品、食材と結び付けて読もうとしている。

### 4 単元の指導計画 (全 10 時間+課外 1 本時 8/10 時間目)

時	主な学習活動 (○)	形態	指導上の留意点 (・)	評価の観点			評価規準 (◆) 【観点】	回遊
				知	思	主		
1	○本単元を通して下級生のためにどのようなことができるか考え、友達と共有する。 ○T 2 R サイクルを用いて活動や必要な表現など単元の見直しをもつ。	個・全	・教科書の内容を参考に、目的意識・相手意識を明確にして単元のゴールの活動や児童の姿を見通す。 ・T 2 R サイクルを用いて活動の見直しをもつようにする。				◆本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導は行う。	C 他者
2	○5年生の社会科の学習で参考になる資料の案を考える。 ○班で産地や貿易について考え、紹介の準備や練習をする。	個・G	・社会科で役に立つ資料を考え、地名や製品、紹介する際の表現に慣れ親しむことができるようにする。	聞			◆紹介したい資料の内容を理解し、表現することができる。【知・技】	A C 他者
3	○自分の班の紹介資料を違う班の友達に発表する。 ○自分の班の資料と比べて交流する。	G	・5年生に伝わる資料や紹介するために、分かりやすく伝えたり視点をもって聞いたりできるようにする。		聞	聞	◆資料の紹介を聞いて内容を理解したり、相手のことを考えて伝えたりしている。【思・判・表】【主】	A B 他者
4	○資料を見直し、5年生への発表の準備をする。	G	・どのように伝えると分かりやすいかを意識するように言葉かけをする。	発			◆資料を紹介するための表現を理解したり使用して発表したりすることができる。【知・技】	A B 他者
5	○5年生へ資料を提示しながら伝える。 ○5年生への発表について振り返る。	G	・5年生に分かりやすく紹介できるように場を工夫する。 ・次時以降につながるように課題も取り上げて振り返るようにする。		発	発	◆資料を紹介するための語彙・表現を使って、相手のことを考えて発表している。【思・判・表】【主】	A D 他者
6	○5年生への発表を踏まえて、産地とのつながりを意識したオリジナルサンドイッチを作るという課題を共有し、解決に向けて見直しをもつ。	個・全	・再度目的意識・相手意識を確認にしてゴールの活動や児童の姿を見通す。 ・T 2 R サイクルを見直し、活動の見直しをもつようにする。				◆本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導は行う。	C 他者
7	○班で前時までの活動を想起したり必要な表現について考えたりして、紹介の準備をする。	G・全	・サンドイッチの内容だけではなく、選んだ理由や思いも加えるように促す。	発	読		◆サンドイッチの具材についての語彙や表現の言い方、文字が表す内容を理解することができる。【知・技】	A C 他者
8 本時	○自分の考えたサンドイッチを友達に紹介する。 ○班で考えたサンドイッチを友達に紹介し、選ぶ。	G・全	・下級生が喜ぶサンドイッチや紹介するために、分かりやすく伝えたり視点をもって聞いたりできるようにする。		聞	聞	◆考えたサンドイッチを分かりやすく伝え合ったり、内容を比べて工夫を意識しながら聞いたりして内容を理解している。【思・判・表】【主】	A B 他者
9	○クラスで選んだメニューを下級生に紹介する準備をする。	G	・学年の実態に合わせて、伝え方や表現を工夫するように、例示したり場を設定したりする。		発	発	◆サンドイッチを紹介するための表現を使って、相手のことを考えて発表している。【思・判・表】【主】	A B 他者
課外	○クラスで選んだメニューを下級生に紹介する。							D 他者
10	○本単元の活動を振り返り、どのようなことができたかを確認する。	個	・単元を通して、どのような学びの過程で、どんなことができたかを確認する。		読	読	◆紹介の活動を振り返って相手のことを考えて伝えたり書かれたりした文字を読んでいる。【思・判・表】【主】	A D 他者

※聞：「聞くこと」、発：「話すこと [発表]」、読：「読むこと」

5 本時の指導（8/10）

(1) 指導目標

班で考えたサンドイッチについて、家庭科や社会科で学習したことや相手に分かりやすく伝えるための工夫を活用しながら紹介したり、相手の考えを聞いて質問したりできるようにする。

(2) 評価規準

イウ 自分たちが考えたサンドイッチを分かりやすく伝え合ったり、内容を比べて工夫を意識しながら聞いたりして内容を理解している。 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（ ）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 本時のめあてを確認し、活動を見通す。（5分）</p> <p>(1) 本時の活動を見通し、Small Talk を行う。</p> <p>・選んでもらえるように魅力的に伝えるためには、どうすればいいのかな？</p> <p>・ジェスチャーやスライドも使うともっと分かりやすくなるね。</p> <p>・聞く時は、これまでに習った反応の表現を使うと詳しく分かるよ。</p> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p> <p>・実際に下級生が喜んでくれるように気持ちを込めて言いたい。</p> <p>・どんな思いで考えているか、どんな工夫をしているか聞きたいな。</p>	<p>1-(1) 本時の活動の見通しをもたせるために、前時に作成したT2Rサイクルを確認できるようにする。</p> <p>1-(2) Small Talk の内容から、発表を聞いて分からなかったところや、より詳しく知りたいところについて、どのように表現すればよいか考えたり確認したりできるような場を設ける。</p> <p>1-(3) <u>話す側は、選んでもらえるように紹介することを、聞く側は、下級生が喜ぶサンドイッチを選ぶことを意識して聞くように言葉かけをする。（A他者）</u></p>
<p>サンドイッチを紹介し合い、下級生が喜ぶようなサンドイッチを選ぼう。</p>	
<p>2 自分の班で考えたサンドイッチを友達に伝える。（25分）</p> <p>(1) 友達にサンドイッチを紹介する。</p> <p>【児童の活動例】</p> <p>児童A: Hi. (自分の班のサンドイッチを見せる) This is Group □'s sandwich. Our sandwich is (指をさしながら) CCC sandwich. C is chicken, cheese and cabbage. Chicken is from Saga, cabbage is from Miyazaki. Cheese is from Hokkaido. The sandwich is colorful. Thank you.</p> <p>児童B: OK. I see. What point is it?</p> <p>児童A: It's healthy.</p> <p>児童C: Why?</p> <p>児童A: Chicken is red group, cheese is yellow group and cabbage is green group.</p> <p>児童C: It's good.</p>	<p>2-(1) 相手に分かりやすく伝えるための工夫について掲示物や板書を使って、常に確認できるようにする。</p> <p>2-(2) いろいろな班の紹介を聞くことができるように、時間を区切る、個別に言葉かけをするなどの手立てをとることで、複数の紹介を聞いたり、自分たちの班の思いを伝えたりできるようにする。</p> <p>2-(3) <u>友達を納得させて選んでもらえる、よりよい提案になるように、班で話し合ったり練習したりできるように言葉かけや場の設定をする。（B他者）</u></p> <p>◆ 下級生の立場で、発表者の伝えたいこと（内容や思い）を意識してサンドイッチの紹介を聞いているか。                  （観察）【思・判・表】【主】                  B 他班のサンドイッチの内容と思いを聞き取っている。                  C→ 友達の紹介やSmall Talk を想起し、全体や班で工夫や表現を確認して聞く視点を意識するよう言葉かけをする。</p>
<p>(2) 班に戻り、得た情報を生かして、自分の班の提案について再考し、友達と再度紹介し合う。</p> <p>・児童Aは、指をさしながら、言っていたから分かりやすかったよ。指さしを取り入れよう？</p> <p>・児童Bは、色や栄養など家庭科で学習したことを理由に入れて言っていたから、思いが伝わったよ。</p> <p>・児童Cは、地図を使って産地の紹介をしていたよ。下級生には分かりやすいから取り入れた方がいいと思うよ。</p>	<p>2-(4) <u>聞くことや発表の①態度面、②言語面（使用している表現、反応）・内容面（思い）、③目的意識・相手意識の観点で見取り、全体で紹介したり実際に提示したりする中間指導を行う。（他者）</u></p> <p>2-(5) 班に戻った際に、「どんな工夫があったか」、「どんな気付きを得たか」について情報を共有したり整理したりする時間を設ける。</p>
<p>3 学級の代表となるサンドイッチを選ぶ。（5分）</p> <p>・Y班は、3色あってカラフルだったから、下級生は喜んでくれると思うよ。</p> <p>・Z班は、X班がしていた工夫の食べ物の色や栄養など理由や詳しい内容を取り入れていたから、より思いが伝わってきたよ。</p>	<p>3 [栄養バランス] [色どり] [産地] [アイデア、味]などを視点にしてタブレット端末で投票をさせ、即時開票して決まった班について、特にどの点がよかったのか、これから紹介する時に気を付けるべきことについて学級全体で共有する。</p>
<p>4 本時の活動を振り返る。（10分）</p> <p>・下級生が喜んでくれるといいなあ。</p> <p>・下級生に紹介する時は、思いをもっと加えたい。</p> <p>・下級生の学年に合わせて表現や資料を考えないといけない。</p>	<p>4 本時の振り返りの視点として、「どんな工夫ができたか」、「どんな気付きや取り入れたかった点があったか」という点で学習を振り返るとともに、T2Rサイクルを見直し、次時の活動の見通しをもつように言葉かけをする。</p>